

井川町における循環器精密検診未受診者の状況

吉 田 タカラ* 児 島 三 郎*
岸 マ サ** 山 崎 タエ子**
五域目保健所保健婦一同

I. はじめに

昭和38年より実施してきた井川町の循環器精密検診の受診状況は¹⁾昭和38年から昭和41年の初期に比べ、昭和46年から昭和49年にはその受診率が低下した。さらに脳卒中の発生率も若い層にその減少がみられなかった。このため、この若年層の未受診者を対象に検診計画をたて、一方において保健婦訪問による受診勧奨を行ない、その対応状況を調査したので報告する。

II. 調査方法、対象及び期間

昭和50年4月30日現在、井川町の住民台帳に登録されている30歳～59歳の住民数は、男1263名、女1416名、計2679名である。その中で昭和47年から昭和50年の循環器精密検診を一度も受けなかった未受診者を、検診経年観察台帳からリストアップした。すなわち男382名、女229名、計611名である。この人々に対し未受診者検診計画をたて、その2週間前に保健婦による家庭訪問を行ない（町保健婦2名、保健所保健婦5名、衛生科学研究所保健婦1名、計8名による）、受診の勧奨とあわせて、受

診希望の有無を把握した。なお、この時点で不参加を表明した人々にはその理由もたずねた。訪問期間は7日間で（昭和51年1月12日～27日）保健婦数は30人日である。

さらに訪問で受診希望を確認した男292名、女179名、計471名を対象に休日を利用し、昭和51年1月31日（土）～2月1日（日）の2日間、未受診者検診を行なった。なお検診通知は訪問による勧奨の他、個人通知も併用した。

III. 調査結果

A. 循環器精密検診未受診者の状況

住民台帳より未受診者としてリストアップした611名は表1に示す通り、全登録者の22.8%で、男382名(30.2%)、女229名(16.2%)である。このうち、76名は訪問前役場当局で死亡・転出・入院等すでに不在又は検診不可能が確定していたので、訪問対象者は535名となる。しかし訪問結果の集計には未受診者として76名も入れてあることをおことわりしておく。

1. 訪問時の対応状況

表1. 循環器精密検診未受診者の訪問時対応状況 —30歳～59歳—

	昭和50.4. 30日現在 の住民登 録者数	昭和50.4. 30日現在 の未受診 者数(%)	訪問前 受診不 可を確 定した 人数	訪問で把握した人数（面接者別 %）						未受診者 検診受診 希望者の 人数 (昭和50.4.30日現在の 未受診者数対 %)	未受診者 検診受診 不可の 人数 (昭和50.4.30日現在の 未受診者数対 %)	訪問前受 診不可を 確定した 人数
				計	本人	本人の 配偶者	本人の 父母・ 姑	その他 の家族	面 接 不 能			
男	1263 (100.0)	382 (30.2)	41	341 (100.0)	79 (23.2)	102 (29.9)	69 (20.2)	23 (6.7)	68 (19.9)	292 (76.4)	90 [41] (23.6)	
女	1416 (100.0)	229 (16.2)	35	194 (100.0)	96 (49.5)	14 (7.2)	33 (17.0)	20 (10.3)	31 (16.0)	179 (78.2)	※ 50 [35] (21.8)	
計	2679 (100.0)	611 (22.8)	76	535 (100.0)	175 (32.7)	116 (21.7)	102 (19.1)	43 (8.0)	99 (18.5)	471 (77.1)	※ 140 [76] (22.9)	

未受診者：昭和47年～50年の循環器精密検診を受診しなかった者。

未受診者検診：昭和51.1.31～2.1に実施計画。

※ 未受診検診受診不可と答えていた中から2名の受診があった。

表2. 検診をうけられない者の理由

	検診を受けられない者(%)	検 診 を う け ら れ な い 者 の 理 由 (%)				
		※ 他町村に居住・転出・死亡	※ 長期入院又は長期加療	出 稼 ぎ 中	註1. 今回は都合が悪い	註2. 検診希望せず
男	90 (100.0)	22 (24.4)	20 (22.2)	30 (33.3)	8 (8.9)	10 (11.1)
女	50 (100.0)	18 (36.0)	18 (36.0)	3 (6.0)	4 (8.0)	7 (14.0)
計	140 (100.0)	40 (28.6)	38 (27.1)	33 (23.6)	12 (8.6)	17 (12.1)
合 計			71 (50.7)		29 (20.7)	
			111 (79.3)			

※ 訪問前に受診不可能と確定していた人数も加えて集計した。

註1.<今回は都合悪い理由>			註2.<検診希望せず>		
男	大学受験付き添いのため	1	男	職場でうけているから	3
(8名)	旅行計画決定のため	3	(10名)	病院でうけているから	1
	病院で他疾患精検中のため	1		・検診うけたくない	3
	身体障害あるため雪道歩行困難	2		・どこもなんともない	1
↓	検診時不在のため	1	↓	・特に理由なし	2
女	忙がしいので春うける(うち1名受診)	2	女	病院でうけているから	3
(4名)	現在病気治療中のため	1	(7名)	神経痛・リュウマチで体にさわられたくない	1
	寒いから受けたくない(受診した)	1	↓	・特に理由なし	3

・全く積極性がないと思われる者

訪問対象となった535名の対応状況は表1に示すとおりである。訪問時、直接本人に面接出来たのは男79名(23.2%)、女96名(49.5%)、計175名(32.7%)であった。本人不在の場合は留守の家族にお願いする事にし、家族の答もそのまま本人の代弁としてまとめた。その結果、2週間後の未受診者検診(以下検診と言う)の受診を希望すると想定される者(以下受診希望者)は、611名の未受診者中、男292名(76.4%)、女179名(78.2%)、計471名(77.1%)あり、はじめから受診出来ない理由をもつ者が男90名(23.6%)、女50名(21.8%)、計140名(22.9%)あった。(但し、この受診出来ない理由を述べていた中から、女2名の受診があった。)

この受診出来ない人々の具体的な理由は表2に示すとおり、近い将来、住民台帳から除かれる可能性のある「他町村に居住・転出・死亡」者が40名(28.6%)あった。さらに「長期入院又は長期加療」や「出稼ぎ中」のように、明らかに当日在町しない者が71名(50.7%)である。この両者を加えると111名となり、検診前すでに受診出来ない理由をもつ者140名の79.3%をしめる事がわかった。なお、われわれの目的の上で最も問題と思われる「今回は都合悪い」12名(8.6%)、「検診希望せず」17名(12.1%)に対し、その理由をさらに具体的に質問して

みたが、その結果は表2註1、2に示したように、検診そのものに全く積極性がないと思われる者が男6名、女3名で今回検診をうけられないと答えた140名の6.4%である。その他の20名は男女ともそれぞれの事情を述べており、全く検診を否定しているとは思われない。

2. 訪問時把握した職業と受診不可の状況

611名の未受診者の職業は表3の通りである。男では382名中、日雇・出稼ぎに従事している者(農業が主又は従に關係なく)が、144名(37.7%)をしめ、次いで「会社・事業所の現業従業員」62名(16.2%)、「大工・左官・板金業」33名(8.6%)など、肉体労働を主とする職業層が計239名(62.5%)で半数以上をしめている。さらに「公務員・公社及び団体職員」42名(11.0%)、「職業不明」が28名(7.3%)を加えると、合計309名(80.9%)が日中在町しない、直接保健指導の手が届きにくい職業層である。日中在町が可能で保健指導の呼びかけに比較的応じられると思われる職業層は「農業が主」の23名(6.0%)、「自営業」32名(8.4%)、「その他の職業」18名(4.7%)、の合計73名(19.1%)と極くわずかしかない。対象者の職業と訪問時受診出来ないと答えた者の関連をみてみると、「他町村に居住・転出・死亡」や「長期入院又は長期加療」を除いて、日雇・出

表3. 未受診者の職業と検診を受けられない者の理由

—男—

	昭和 50. 4. 30 日現在の未受 診者数 (%)	検 診 を 受 け ら れ な い 者 の 理 由					
		他町村に 居住・転 出・死亡	長期入院 又は 長期加療	出稼ぎ中	今 回 は 都合悪い	検 診 希望せず	計 (%)
農業が主, 日雇・出稼ぎが従	96 (25.1)		2	9	4	1	16 (17.8)
日雇・出稼ぎが主, 農業が従	48 (12.6)		3	17	1		21 (23.3)
会社・事業所の現業従業員	62 (16.2)	4	1		1	1	7 (7.8)
大 工 ・ 左 官 ・ 板 金 業	33 (8.6)			2			2 (2.2)
公務員・公社及び団体職員	42 (11.0)	1				2	3 (3.3)
農 業 が 主	23 (6.0)	1	2			1	4 (4.4)
自 営 業 {建設関係 商業・その他	32 (8.4)		1	1	1	3	6 (6.7)
そ の 他 の 職 業 職	18 (4.7)	2	1	1	1	2	7 (7.8)
職 不 明	28 (7.3)	14	10				24 (26.7)
計	382 (100.0)	22	20	30	8	10	90 (100.0)

—女—

	昭和50.4.30 日現在の未受 診者数(%)	検 診 を 受 け ら れ な い 者 の 理 由					
		他町村に 居住・転 出・死亡	長期入院 又は 長期加療	出稼ぎ中	今 回 は 都合悪い	検 診 希望せず	計(%)
農業が主, 日雇・出稼ぎが従	22 (9.6)						
日雇・出稼ぎが主, 農業が従	21 (9.2)			1			1 (2.0)
会社・事業所の現業従業員	40 (17.5)						
公務員・公社及び団体職員	9 (3.9)					2	2 (4.0)
農 業 が 主	38 (16.6)		1		2 ※	2	5 (10.0)
自 営 業 {建設関係 商業・その他	14 (6.1)				1		1 (2.0)
主 婦(家事・子守り)	34 (14.9)	1	2		1	2	6 (12.0)
そ の 他 の 職 業 職	24 (10.5)	1	5	2		1	9 (18.0)
職 不 明	27 (11.8)	16	10				26 (52.0)
計	229 (100.0)	18	18	3	4 ※	7	50 (100.0)

※ 訪問時受診不可と答えていたが検診を受けた者。 註 訪問前に受診不可能を確定していた人数も加えて集計した。

稼ぎに従事している者が37名（41.1％）と多い。

女では「会社・事業所の現業従業員」40名（17.5％）が最も多く、その職場はほとんど中小企業で、日雇・出稼ぎに従事している者計43名（18.8％）と共に精密検診の恩恵に浴しがたい人々である。なお、訪問時「今回は

都合悪い」と述べていた「農業が主」の中から2名の受診があつたが、貴重な事例と思われる。

B. 受診状況

訪問により受診希望を確認した男292名、女181名計473名に対し、一般の検診と同様に検診通知を出し、日時も

表 4. 訪問時の対応状況と受診状況

—男—

返 答	出 席	良 い	す す	不	不	計	今 欠	検 希	病	出	計	訪 し
面接者	出席させる	いと思	すめ	明	在		回席する	望せ診ず	気	稼ぎ中		問 た 把 人 握 数
本 人	面 接 数 (受診数) 受 診 率	5 (33) 57.8	7 (1) 14.2			69 (34) 49.2	5	4			9	78
本 人 の 配 偶	面 接 数 (受診数) 受 診 率	40 (25) 59.5	9 (11) 27.5			91 (36) 39.5	2	3		5	10	101
本 人 の 母 親・姑	面 接 数 (受診数) 受 診 率	35 (11) 57.8	6 (21) 60.0			60 (32) 53.3	1	3	1	4	9	69
その他の 家 族	面 接 数 (受診数) 受 診 率	5 (3) 100.0	13 (5) 38.5			21 (12) 27.7				2	2	23
面接不能	面 接 数 (受診数) 受 診 率				51 (13) 25.5	51 (13) 25.5				19	19	70
計		121 (72) 59.5	85 (36) 42.3	35 (6) 17.1	51 (13) 25.5	292 (127) 43.4	8	10		30	49	341

—女—

返 答	出 席	良 い	す す	不	不	計	今 欠	検 希	病	出	計	訪 し
面接者	出席させる	いと思	すめ	明	在		回席する	望せ診ず	気	稼ぎ中		問 た 把 人 握 数
本 人	面 接 数 (受診数) 受 診 率	73 (40) 54.7	5 (2) 40.0	7		85 (42) 49.4	4 (2) 50.0	7			11 (2) 18.2	96
本 人 の 配 偶	面 接 数 (受診数) 受 診 率	8 (3) 75.0	2 (3) 37.5			14 (6) 42.8						14
本 人 の 母 親・姑	面 接 数 (受診数) 受 診 率	24 (17) 75.0	5 (1) 20.0			33 (21) 63.6						33
その他の 家 族	面 接 数 (受診数) 受 診 率	7 (1) 14.2	8 (2) 25.0			18 (5) 27.7			1	1	2	20
面接不能	面 接 数 (受診数) 受 診 率				29 (9) 31.0	29 (9) 31.0				2	2	31
計		84 (48) 57.1	44 (23) 52.2	22 (3) 13.6	29 (9) 31.0	179 (85) 47.5	4 (2) 50.0	7	1	3	15	194

受診し易いと思われる土・日曜日を選定して検診が行われた。その結果、受診者は男127名（43.5％）、女85名（47.0％）で、思いのほか低率の結果となった。なお、前述のごとく受診不可の中から2名の受診者が加わっている。この受診状況を訪問時の面接者別、ならびに職業別に検討してみた。

1. 訪問時の面接者別受診状況

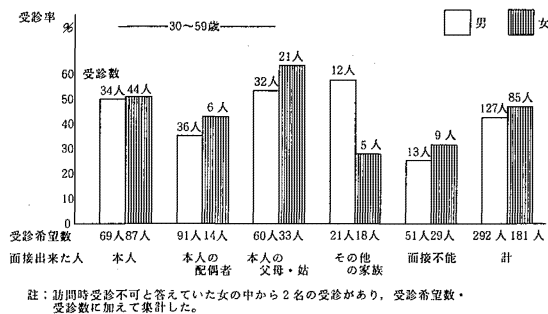


図1. 受診希望対象者の受診状況（面接者別）

訪問時の面接者別検診受診状況を表4、図1に示した。本人と面接し説得した場合、受診につながったのは男69名中34名（49.2％）、女87名中44名（50.6％）であった。又本人の配偶者に依頼した場合は男91名中36名（39.5％）、女14名中6名（42.8％）で、父母・姑に依頼した場合には男60名中32名（53.3％）、女33名中21名（63.6％）という結果であり、特に女の場合、父母・姑への依頼が高い受診率を示す傾向がみられる。「その他の家族」とは、

嫁・子供・祖母に面接した場合で、男21名中12名（57.1％）が女の父母・姑に依頼した場合に次いで高い受診率の傾向を示した事は注目される。この事は本人に直接面接出来ない場合、本人の配偶者に依頼するよりも父母・姑に奨めてもらうか、その他の家族を通して勧奨してもらうことで効果を上げ得るのではないかという事を示唆しているとも考えられる。そしてこの事は農村地帯の地域性・家族制との関連も深く、今後の未受診者への働きかけに考慮を要する大事なことと思われる。「面接不能」とは、検診勧奨の用紙を置いて来ただけの場合で、この人々の受診率は男51名中13名（25.5％）、女29名中9名（31.0％）で、もちろん個人通知も行なわれているが最も低かった。この事より一応受診希望と答えている人々でも通知だけではその効果は薄い事が予測され、訪問、その他何らかの配慮がさらにあった方がよりよいものと想定される。

2. 検診希望者の職業別受診状況

表5に示す通り、「日雇・出稼ぎが主、農業が従」とする者が男27名中8名（29.6％）、女20名中7名（35.0％）といずれも他の職種に比べ低い傾向がみられる。日中在町していると思われる「自営業」では男の場合26名中16名（61.5％）であるのに比べ、女では13名中4名（30.8％）と低く、また「主婦」の28名中11名（39.3％）とあわせ、女の低率に対し、今後、何らかの配慮が必要と思われる。

更に、今回の検診にも受診せず、再度未受診者として残った者は、男で165名（56.5％）であり、職業として

表5. 受診希望対象者の受診状況（職業別）

一男一

受診希望者数：昭和50.4.30日現在の未受診者数

一未受診者検診を受けられない者

	受診希望 対象者数	受診状況		再度未受診となった数 (165名対%)
		受診数	受診率	
農業が主、日雇・出稼ぎが従	80	35	43.7	45 (27.3)
日雇・出稼ぎが主、農業が従	27	8	29.6	19 (11.5)
会社・事業所の現業従業員	55	22	40.0	33 (20.0)
大工・左官・板金業	31	15	48.3	16 (9.7)
公務員・公社及び団体職員	39	18	46.1	21 (12.7)
農業が主	19	8	42.1	11 (6.7)
自営業（建設関係・商業・その他）	26	16	61.5	10 (6.1)
その他の職業・無職	11	4	36.3	7 (4.2)
職不明	4	1	25.0	3 (1.8)
計	292	127	43.5	165 (56.5)

	受 診 希 望 対 象 者 数	受 診 状 況		再度未受診となった数 (96名対%)
		受 診 数	受 診 率	
農業が主, 日雇・出稼ぎが従	22	10	45.5	12 (12.5)
日雇・出稼ぎが主, 農業が従	20	7	35.0	13 (13.5)
会社・事業所の現場従業員	40	22	55.0	18 (18.8)
公務員・公社及び団体職員	7	3	42.9	4 (4.2)
農 業 が 主	35	20	57.1	15 (15.6)
自営業(建設関係・商業・その他)	13	4	30.8	9 (9.4)
主 婦(家事・子守り)	28	11	39.3	17 (17.7)
そ の 他 の 職 業 ・ 無 職	15	8	53.3	7 (7.3)
職 不 明	1	0	—	1 (1.0)
計	181	85	47.0	96 (53.0)

註：訪問時受診不可と答えていた「農業が主」の女の中から、2名の受診があり、受診希望対象者数、受診数に加えて集計した。

は肉体労働を主とする職業層のいわゆる「日雇・出稼ぎに従事している者」、「会社・事業所の現業従業員」、「大工・左官・板金業」等合計113名で、残った者の68.5%をしめている。次いで「農業が主」とする者及び「自営業」の計21名(12.8%)、「公務員・公社及び団体職員」の21名(12.7%)がこれに続いた。²⁾この事は脳卒中の発生頻度が日雇・現業職に高く、農業、事務商業がこれに続くパターンと同じ傾向のごとく見られ、今後の追跡・管理指導をすすめる上で極めて大切なことと思われる。

女では再度未受診者が96名(53.0%)で、職業別では「会社・事業所の現業従業員」が18名(18.8%)、「主婦」の17名(17.7%)が他の職種に比し多い傾向にみられた。

IV. まとめ

以上本調査を通し、若年層の脳卒中予防活動としての検診受診率向上のうえで、今後考慮すべき事は次のような事であると思われる。

1. 対象者の把握に対し一考を要する。はじめから検診を受けられない者140名は対象の22.9%でありこの中、71名(50.7%)が各々の家庭事情で長期間町を離れてい

る者であって、国勢調査方式で対象者を選定した場合、見落とされやすい。

2. 検診を最も受けにくい職業層は「日雇・出稼ぎ」及び「大工・左官・板金業」等職場の一定しない人々と、中小企業で働らく現業従業員であったが、この人々に対する積極的な対策が急がれる。

3. 日中在町せず、直接本人と面接しにくい人々に対して、父母・姑、又はその他の家族に依頼した場合でも可成りの成績を上げることが可能であり、殊に女の場合は好成績の傾向がみられた。

4. 個人通知のみでは検診意識を高める効果は薄いと考えられるが、この事より従来の保健活動に加えて、地域と密着した、例えば婦人会その他の住民組織を通し、住民相互の督促を計ることも効果的と思われる。

文 献

- 1) 児島三郎たち：井川村における循環器精密検診10年のまとめ、秋田県衛生科学研究所報, 17, 83~90(1973)
- 2) 谷垣正人, 他：脳卒中発症に及ぼす生活環境の影響, 日本公衆衛生雑誌 特別附録, 24巻, 10号, 473, 昭和52年